

意義深し山林復興大會

復興意欲に燃える人々の



發行所
和歌山市小松原通
和歌山縣廳秘書課
編集兼發行人慶所
森印刷所
和歌山縣印刷所
定價(公)一部六十錢

富田村に於て記念植樹式バスは、頬をヒヤリと含む山林復興大會撫で行く頃。林道を開催したのである。むにつれて、石塊を政府司令官、縣知事じた泥濘に流石の文び多數關係者と共に利器も脚をとられ和歌山縣

和歌山縣

山林復興大會宣言

吾等は租國再建に當り先ず荒廢の極に達した山林を復興して河川を治め涸渴に瀕した林產資源を培養して水害の慘禍を未然に防ぎ併せて農山村經濟の振興を圖り以つて民生安定の實を揚げんとするものである。

本日我等はこゝに和歌山縣山林復興大會を開催してその決意を固めんとするものである。

和歌山縣山林復興大會

和歌山縣 山林復興大會宣言

軍政府司令官縣知事
縣會議長、其の他有志
の一齊植樹の後、標識
を立て記念撮影してめ
でたく終了したのであ
る。天又この行事を嘉
し給うが如、薄れ行く
雲間から惠深き春陽の
今植えられた若苗に生
成化育の息吹を與える
のであつた。

春分の日を期して縣下富田驛に下車した記者は、ジープを含む三台間のせらぎに沿うて進むこと十數分にして緑の週間、その第一日のオートに分乗して、此の晴れの表彰を受ける人々の大會場に急ぎた。春ぬるむ溪谷は家庭緑の日として植樹思想の普及、記念植樹奨励の項目を掲げ、軽い足取りに微笑みを長始め地元民青年學徒たのであるが、縣林務投げつゝ山林大災跡地課としては、かつての共有山の記念植樹に向う。夜來の雨の名残を耳目を衝動した西牟婁と、めて低迷するニンニク大山林火災として世の視野に映する四圍の山々はかつての火災の跡郡富田村に於て記念植樹を含む山林復興大會撫でて行く。林道を進むにつれて、石塊を混じをしているに過ぎない。軍政府司令官、縣知事じた泥濘に流石の文明及び多數關係者と共に利器も脚をとられて車政府司令官、縣知事

◎ 官僚打倒、
ボス排撃を目指して
＝綱紀肅正委員會の發足＝
縣廳職組の自主性に期待！

封建的官僚思想の徹底的打破、政治ボスの排除等を目指して県廳職員組合の手によつて綱紀粛正委員會が力強く生れようと！

れた。インフレの波其他社會的苦痛に災されながらも、虚飾を大自然の懷に溶け込んで、而も世を益する極めて、大なる之等の人々の崇高なる人間性に接した時、都塵の淫れを拂拭せられるのであつた。

○森林火災に對する法的根據を確立されるなれば、二、植林並に撫育事業に對し勞務特配を認めよ。(川添村森林組合)

○此の勞務加配米がなきこととは山林の綠化を妨げることになつてゐる。

三、林業金融の圓滑化を望む(大都河村森林組合)

○森林金融の利率を毎三分五厘に引下げ期間を二十年以上に延長せよ。

四、薪炭林擇伐並備長
炭の獎勵を計られた
い。(秋津川村森林組合
○白黒炭の買上價格の
差を大にせよ。○白炭
に對し助成金を與えよ。
○擇伐の獎勵と助成金
の附與。○擇伐技術の
附與。○推草原本木と並
行して獎勵。
五、奥地森林資源開發
施設の擴充を要求
附與。

された議題は、山林の真摯にして活氣旺溢其復興と総化の要望せらる大會は別記和歌山縣復興の今日より急なることのなき時、完全に完徹されるよう、百萬縣民渴望して止まないとかくて三時間有半始終ころである。

上氣した人々の頬に冷氣擦過するのであつた。 果の寒さか射陽に向う満場一致可決して散會したのであつた。

□道路愛護功勞者を表彰

自治功勞者の表彰、林三月二十六日

業功勞者の表彰に續いて、今度は道路愛護の那賀郡、伊都郡、串本土木出張所管内

（中）税金攻勢で至る所に悲鳴聞く。▲やれぬのは獨り商工業者や農漁家ばかりではない。労働者やサラリーマンにはもつと手厳しいことたえる。目が眩む。

兒童委員の活動について(一)

縣兒童課長 上 美明

要保護兒童の家庭調査等は本人の秘密を外部に暴露するような結果になることもあるから特に目立たないようによく早く醫師又は助産婦の妊娠證明書を添え市町村長に妊娠の届出をし、母子手帳の交付を受けること

立を要望する(縣新連
て網紀蕭正委員會が力強
いる。
縣政の民主化、明朝縣政
候補頭初のスロー・ガンで
望する所、此處に組合自
題と取組み公務員の自覺
見せようとする同委員會
活動は百万縣民の期待し
う。
九、共有山制度について、
以上九つの議題につき
提案者の提案理由説明
の後、活潑なる論議が
行われたのである。國
縣へ要求せられ又決議

<p>森林組合へ金融業務を委任せよ。</p> <p>の確立は現知事立 あり多數縣民の切 体が自主的に本間 に徹して新發足を の今後の適正なる てやまぬ所である</p>	<p>六、治山對策の確立を 要望する。</p> <p>(高池町森林組合、和歌山 県治山防災協會)</p> <p>七、造林並に樹苗の養 成に大幅の助成をさ れたい。</p> <p>(縣森連、林業種苗協會)</p>	<p>八、山林復興施策の確 立を願ふ。</p>
---	---	-----------------------------

○ 森林金融の圓滑化を望む(大都河村森林組合、縣森驗)

○ 三十分五厘に引下げ期間を二十年以上に延長せよ。

○ 林道、開發施設の整備擴充

三、林業金融の圓滑化を望む(大都河村森林組合、縣森驗)

五、奥地森林資源開發施設の擴充を要求

(三川村、長野村森林組合)

○森林火災に對する法的根據を確立された法
二、植林並に撫育事業に對し勞務特配を認めよ
○此の勞務加配米がないことは山林の綠化を妨げることになつてゐる。○薪炭林擇伐並備長炭の獎勵を計られた法
四、薪炭林擇伐並備長炭の獎勵を計られた法
い。(秋津川村森林組合)

◆道路愛護功勞者を表彰

護者に對しては保健指導をうけるよう勧奨し、もし經濟的理由でその費用を拂えないものがあるときは、そのことを児童委員は證明し、市町村長を經て知事に申請書を提出させると共にあらかじめ、市町村に準備してある保健指導票が速かに交付されるよう斡旋する必要がある。

3. 入院助產について保健上必要があるにもかかわらず經濟的理由により入院助產

4. 特別の事情により妊娠した人については、その人の生活環境を考慮して入院助產、出産後の母子の生活指導につき特に細心の注意をし、生む出る児童の福祉を圖ることが必要である。

道路愛護會に對する表彰式が左の通り舉行される。
なほ縣下で土木手三十
二名、道路愛護團体五
で夫々表彰狀及び賞金
が贈られる。

漁業會の解散
準備總會には必
ず出席しましよ
う!!

二、十八日
海草郡、日高郡管内
三十一日
東牟婁郡管内
西牟婁郡管内
生産復興、輸送増強に
重要な役割を果す道路
の、愛護、保全に日夜
陰の力を盡して いる道
路工夫及び積極的に維
持愛護に協力している

された議題は、山林の真摯にして活氣旺溢其復興と綠化の要望せらる大會は別記和歌山縣される今日より急なる。山林復興大會宣言案をとのなき時、完全に完滿場一致可決して散會されれるよう、百萬縣かくて三時間有半始終民渴望して止まないところである。

上氣した人々の頬に冷氣擦過するのであつた。

果の寒さか射陽に向うしたのであつた。

したのであつた。

自治功勞者の表彰、林業功勞者の表彰に續いて、今度は道路愛護の

那賀郡、伊都郡、唐本土木出張所管内



問紙上

少い春肥を如何にして
有効に施用するか

問		答		問		答		
少い春肥を加 有効にす		○自給肥料の 問題		問 今年の春肥は主 要食糧作物については どの程度の配給量か？		答 今年の水稻、甘 藷馬鈴薯に對する統制 肥料の割當は、左の通 りとなつてゐるが、こ の數量は、縣下平均の 反當であつて水稻につ いては、地域別に、そ の數量が違つてゐること を御承知願いたい。		
問	配給數量は了解 したが果して作物の栽 培に間に合う様に肥料 が入荷するか？	肥料割當表 (縣下平均反當貫)	硫酸 過磷酸 加輸入里	水稻 二・三 四・四 三・八 一・九	甘藷 二・七 一・五 二・〇 一・九	馬鈴薯 四・四 三・〇 一・五 二・〇 一・九	水 稻 五・七 二・三 一・五 一・八 一・九	
答	從來やゝもす れば肥料の入荷が遅れ て、農家の皆さんに御 迷惑をかけたが、今期 は關係各方面とも現物 の適期配給に懸命の努 力を致しております、特に 肥料輸送無事故月間 五日迄の一ヶ月間を 肥料を大々的に展開し、 又肥料の生産状況も目 下の處々上々必ず適期 に肥料を皆様方のお手 元に届けることが出来 ると確信する。それでは、これ 等の肥料をどの様に使	即ち昔から米は田で作 ると云われてゐる通り 先づ田を作つて置かね ば增收を望むことは困 難で、稻は、それ程地力 に起因する肥料成分を 吸収利用するものであ る。例えば本縣の紀の 川沖積層で反當七俵の 収量を得るものとして 上げ得ることになるの であつて残り二俵半を 金肥で收穫している結 果となるのである。	うことが最も効果的か それをお教え願いたい ○自給肥料の 問題	前に此所で充分御注 意を喚起して置きたい のは、堆肥、厩肥等の 自給肥料の問題である 。それは以上の三作物 については特に自給肥 料の効果が顯著に表わ れるからである。	問 今年の春肥は主 要食糧作物については どの程度の配給量か？	答 今年の水稻、甘 藷馬鈴薯に對する統制 肥料の割當は、左の通 りとなつてゐるが、こ の數量は、縣下平均の 反當であつて水稻につ いては、地域別に、そ の數量が違つてゐること を御承知願いたい。	問 今年の春肥は主 要食糧作物については どの程度の配給量か？	答 今年の水稻、甘 藷馬鈴薯に對する統制 肥料の割當は、左の通 りとなつてゐるが、こ の數量は、縣下平均の 反當であつて水稻につ いては、地域別に、そ の數量が違つてゐること を御承知願いたい。

(都市別並に肥料別是正割當合計表)

		N	P	K
和	歌	52.388	4.626	3.204
新	山	1.797	426	20
海	官	1.546	340	238
田	南	1.706	502	22
那	邊	30.311	15.533	5.825
伊	草	27.527	11.456	5.774
有	賀	20.344	9.696	4.948
日	都	15.233	7.586	2.794
西	田	29.753	12.199	4.956
東	高	21.200	9.803	2.987
合	妻	11.610	5.385	994
	計	213.367	77.852	3.215

次に硫安の問題であるが甘藷に對しては配給量も餘り多くなく馬鈴薯は生育期間が短い關係上これ等作物に對しては、やはり元肥として施用するのが妥當であるが皆さんの實際上の経験で一部追肥として使用しても良いと思う。硫安について一番關心を持たねはならないことは、何と云つても水稻との關係である水稻についても勿論充分の配給量とは言えないが必ず元追と追肥とに分施して戴きたい。然らば前記の配給量をどの様に分ければ良いかと云うことになるが此のことは田の肥沃の程度の天候等で一概には言えないと、大体の標準は元肥に二貫五百匁、三貫程度殘餘を追肥と云うことになる。

硫安の元肥施用で特に御注意を願つておきたることは出來得る限り硫安を耕上の全層に混ざる様施されたいのであつて田耕えも完了し畠を植えるばかりになつて硫安を撒布する等は絶対慎んで頂きたい。斯くすることは折角施した硫安の効果を大半失う結果となるので、無論とも留意して欲しい。追肥についてはその時期及び施用量に色々な考え方もあるが時期としては分蘖増進時、幼穗形成時が重要であるが、あって特に後者には

重点を多くべきだと
既ち幼穂形成 時(出
時より遡り晩生種で
廿五日程前、中生種
は廿三日程前)は母
の内容を最も充實さ
なければならぬし
稲の吸収すべき窒素
分が不足勝になつて
るのが常態であるか
此の時には是非追
を必要とすることに
る。前述の結果より
て量的には、分蘖増
時に四割、幼穂形成
に六割の見當とし施
すべきだと思う。
以上は、普通水田に
する硫安施用の問題
申し述べたのであつ
秋落水田については
種の情況より考察し
量的には、寧ろ追肥
多量に計畫し、且此
回數を増すことにす
のは當然のこと、思
是で水稻甘薯馬鈴薯
對する統制肥料の施
方法の重點をお話し
したのであるが折角
努力せられ、うんと
産されんことをお願
する次第である。

（8）鞆もち　國重縣議の意味ある久太郎先生の肺ふをぎえぐつて傷痕は消えなかつ「僕だつて同じだ、君に扱わると偉くないだよ」事務局で久太郎先生は言葉を追憶していた。「早い話がぞ、君かくされると、つい手頂天になつたりしてしまつただよ」雪になるのか窓硝子も見てゐる大空に雲が重んづけられていた。

「人間の弱点だね、鞆持ちが鞆持ちの悲宮することを知らない利用することを知つて、おそらく鞆持ちは辱はあるたえられないが、されるかもしれないからだ。人間」という表情でかみしめていた久先生は、つと窓際に立つて空を見あげて深く吐息をした。

かばんもち
えむよしむら

「鞄持ちが鞄持ちの悲哀を、さうして地位を得たら、同僚のしおび難ををさえして、平然と他にも亦それ求めだらう」

久太郎先生は暗い雪空をうつした硝子にはづと浮んだ蜘蛛課長の顔をみた、あの男の態度はそうであつた。そして、その屈辱を求められて、まゝに應じてきたのは自分であつた。しかも、鞄持ちの悲哀を悲哀と感ずることなく、數度に躰身を希い願つて、その男をみつけた。まさしく彼は硝子に寫つた平くも長の顔ではなく、久太郎先生自身の醜惡な顔であつた。彼は、窓硝子の前で眼を閉じた。

卑屈、破廉恥漢、自らの顔に、そのらく印を生々と刻んで、だ愚物、しかも、榮身なれど得意と錯覺して、きた大魔鹿者、それは、お前だぞ、やめろ、そんな腐敗しきつた途を選んで榮達を求めようとしたのだ。

久太郎先生の五体の底で者かが大声をあげ、がんがらと彼にどなりつけていた。彼は耐えられぬよう、兩手で頭をかゝえ、いつまでも續く嘆大な絶叫を耳にして、重くたれた雲空は黒く、やがて飄々と寒風が窓外に狂ひひとして吹雪が舞いはじめた。

久太郎先生は、まばたきもせず、稍々季節はづれの雪の亂舞を見すえていた。廳内の庭に肥りかけた桃の蕾が、ほのかに色をみせて、いた。そだ、よくぞ思いがけぬねくと、久太郎先生は、まさに花瓣を開かなくてよかつた、——と思う久太郎の魂のうちから激しい絶叫が次第に遠のき、わが行く道の前途に舞い、い狂いそ、積つていく雪の白さに似た、ほのかな明るさを感じられるのであつた。(完)